

**製品名: JAB1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12809**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	COPS5
別名	COPS5; CSN5; JAB1; COP9 signalosome complex subunit 5; SGN5; Signalosome subunit 5; Jun activation domain-binding protein 1
遺伝子 ID	10987.0
SwissProt ID	Q92905
免疫原	抗血清はヒト COPS5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

**背景**

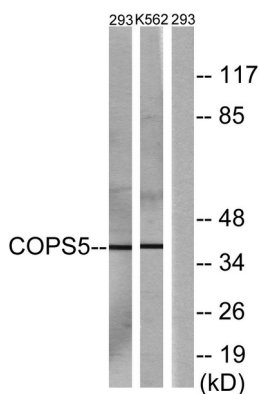
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、複数のシグナル伝達経路において重要な調節因子として機能する高度に保存された

タンパク質複合体である COP9 シグナロソームの 8 つのサブユニットのうちの 1 つです。COP9 シグナロソームの構造と機能は、26S プロテアソームの 19S 調節粒子の構造と機能に類似しています。COP9 シグナロソームは、SCF 型 E3 ユビキチンリガーゼと相互作用し、E3 ユビキチンリガーゼの正の調節因子として機能することが示されています。このタンパク質は、サイクリン依存性キナーゼ阻害剤 CDKN1B/p27Kip1 の分解に関与することが報告されています。また、JUN/AP1 転写因子の特異性を高めるコアクチベーターとしても知られています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]補因子: 二価金属イオン。ドメイン: JAMM モチーフは、CSN 複合体のプロテアーゼ活性に必須であり、その結果、cullin の脱ネディル化が起こります。これは複合体の触媒中心を構成します。機能:さまざまな細胞プロセスや発生プロセスに関与する複合体である COP9 シグナロソーム複合体 (CSN) のおそらくプロテアーゼサブユニットです。CSN 複合体は、SCF 型 E3 リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱ネディル化を仲介し、SCF、CSA、DDB2 などの SCF 型複合体の Ubl リガーゼ活性を低下させることで、ユビキチン (Ubl) 結合経路の重要な制御因子です。複合体はまた、おそらく CK2 および PKD キナーゼとの関連を介して、p53/TP53、c-jun/JUN、IkkappaBalph/NFKBIA、ITPK1、ICSBP のリン酸化にも関与しています。CSN 依存性の TP53 および JUN のリン酸化は、それぞれ Ubl システムによる分解を促進および保護します。複合体において、CSN はおそらく Cullin から Nedd8 の切断を媒介する触媒中心として機能する。しかし、CSN 複合体自身にはメタロプロテアーゼ活性はなく、CSN 複合体の他のサブユニットを必要とする。CSN 複合体によって制御される多数のタンパク質と直接相互作用し、複合体における重要な役割を担っていることが確認されている。その他: CSN 複合体は、Lys-63 特異的な脱ユビキチン化に関与している。しかしながら、この活性はコア CSN 複合体ではなく、BRISC 複合体の BRCC3/BRCC36 構成要素によって媒介される。類似性: ペプチダーゼ M67A ファミリーに属する。CSN5 サブファミリー。類似性:1 つの MPN (JAB/Mov34) ドメインを含む。サブユニット:COPS1/GPS1、COPS2、COPS3、COPS4、COPS5、COP6、COPS7 (COPS7A または COPS7B)、および COPS8 からなる CSN 複合体の構成要素。複体内では、COPS1、COPS2、COPS4、COPS6、および COPS7 (COPS7A または COPS7B) と直接相互作用すると考えられる。CSN 複合体は BRISC 複合体と相互作用する。単量体としても存在する。TP53、MIF、JUN、UCHL1、NCOA1、HIF1A、CDKN1B、BCL3、GFER、PGR、LHCGR、SMAD4、SMAD7、ID1、ID3、ITGB2、および TOP2A と相互作用する。RANBP9、Ran、DYRK1B、および COPS5 からなる複合体の一部。

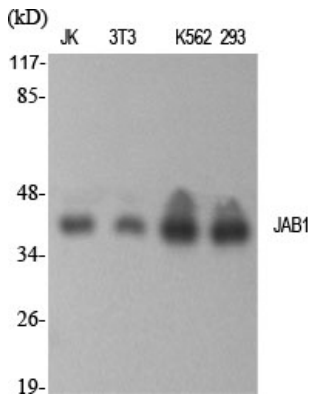
## 研究分野

-

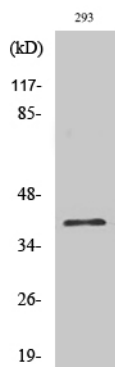
## 画像データ



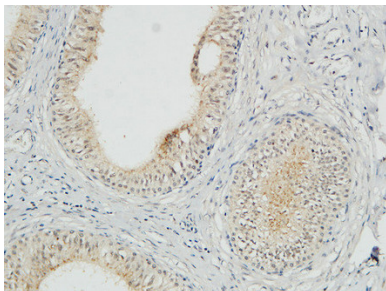
COPS5 抗体を用いた 293 細胞および K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



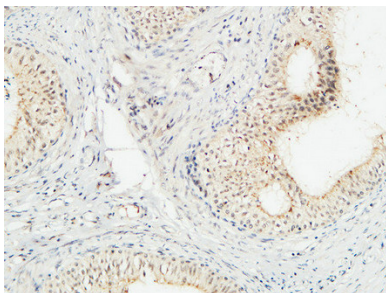
JAB1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



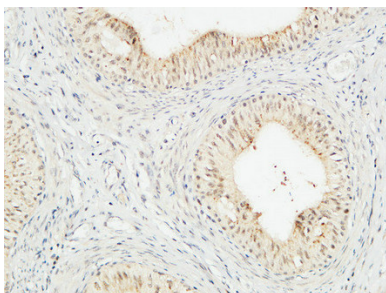
JAB1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。

